

平成30年1月定例教育委員会会議録

1. 開催日時 平成30年1月25日(木) 15時10分～ 17時15分
2. 開催場所 日野町役場201会議室
3. 出席委員 今宿綾子教育長、西村吉弘教育長職務代理者
山田めぐみ委員、高橋政宏委員、谷 信代委員
4. 出席事務局員
教育次長 : 高橋 正一
学校教育課 : 参事 野瀬 薫 参事 正木 博之
生涯学習課 : 課長 日永 伊久男
図書館 : 館長 高浪 郁子

今宿教育長	<p>ただいまから、日野町教育委員会定例会議を開会します。</p> <p>先ほどは、必佐小学校を参観いただきありがとうございました。</p> <p>先週からインフルエンザによる学級閉鎖が続いておりました心配しておりましたが、子ども達の様子をみておりますとマスクをしている子どもは意外と少なかったのですが、欠席をしている子どもはまだまだいるような状況でしたので、心配な状況です。</p> <p>今年度町内の全小学校において、タブレットパソコンを配置させていただきましたが、活用してどのような授業ができるか模索しておりますが、まだまだ課題も多いように思います。今日は、町内のICT教育推進委員会のメンバーが集まって協議をしてくれていますので、いろいろな意見を申し合っていると思います。</p> <p>それでは、本日の定例会議を議事日程に基づき進行します。</p> <p>日程3の前回委員会の議事録の報告については、お手元に配布の議事録のとおりであり、委員各位においてご覧いただき、異なるところがあれば事務局までご連絡をお願いします。</p> <p>次に日程4の経過報告に移ります。</p> <p>まず、私の方から主な経過を報告させていただきます。</p> <p>第3学期が始まったと思ったのも束の間、早くも1月下旬になりました。特に1月というのは、大きな行事もたくさんございました。委員の皆さま方には、あいさつの会、成人式などに、ご出席を賜りまして、ありがとうございました。</p> <p>成人式では、今年も実行委員を募り、実行委員の成人たちの手によって計画され進められた式でございまして、大きな混乱もなく、厳粛で落ち着いた、成人を祝う雰囲気、よい成人式であったと思っております。</p> <p>80%を超える出席率ということで、町の成人者たちも大事な式だと思ってくれていると感じました。</p> <p>また、この時期はちょうど次年度の予算編成の時期でございまして、厳しい財政状況でございますが、しっかりと教育振興の取り組みをしていきたいと思っております。</p> <p>新指導要領への対応ということにつきましては、平成30年度から移行の時期がスタートしてまいりますので、特に小学校の外国語の時間が1時間増える中で、本格実施された時の時間割、その時間をどのように生み出していくのかということが大きな課題になってくると思っております。次年度から無理なく段階的に取り組んでいきたいと思っておりますのでござ</p>
-------	--

<p>野瀬参事 日永課長 高浪館長</p>	<p>います。 教職員が自らしっかりと課題意識を持って取り組んでいくということが大事であり、さらに5小学校の特色を活かしながらも、1中学校に進みますので、合わせられるところは合わせて取り組んでいきたいと思っているところでございます。 充実した1年になりますように頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 続いて、各課からの報告を学校教育課から順次させていただきます。</p> <p>(各課から報告)</p>
<p>今宿教育長</p>	<p>以上でございます。ただいまの経過報告につきまして、ご質問などございませんでしょうか。</p>
<p>西村委員</p>	<p>質問と、それから報告ということでさせていただこうと思うのですが、先に質問をさせていただきたいと思います。 これは前回の定例会の時にご質問を申し上げようかなと思っておりまして、ちょっとタイミングを外したようですけれども、今の時期のことです。お尋ねしたいのですが、就学援助という、経済的に困難な家庭の小中学生が受けておられるものですね。これは、児童生徒さんの数を分母にすれば、どれくらいの率の方が受けておられるのでしょうか。まずそれをお尋ねします。だいたい結構です。</p>
<p>高橋次長</p>	<p>およそ1割、10%程度が要保護・準要保護ということで就学援助を受けています。だいたい県内平均も10%くらい、日野の方が少し少ない状況です。</p>
<p>正木参事</p>	<p>平成28年度で小学校で9.88%、中学校で12.08%、小学校は去年ですと1,134人に対して、要保護が5名、準要保護が107名。中学校は563人に対して要保護が3人、準要保護が65人ですので、その年の変動によりますが、概ね1割程度になっております。</p>
<p>西村委員</p>	<p>私が質問させていただこうと思いますのは、入学にあたって、学用品等の準備、入学準備というのが必要だと思うのですが、入学前の時期というか、今から3月くらいまでと思うのですが、その時期に前倒ししての支給は、日野町ではされているのでしょうか。 といいますのは、私、ローカル週刊紙の報道を見せてもらったのですが、県内では小学校・中学校とも入学前に支給しておられるのが10市町、中学生になる人のみは3市、あとの6市町が前倒し支給を実施しておりませんとなっておりまして、ここに日野町が入ってございます。私は、本来お金が必要な入学前にタイムリーに援助を受けていただくというのが姿としては望ましいのではないかと思います。ご配慮を願えればと思うのですが、この件についての実現の見通しというのはどうなんでしょうか。</p>
<p>高橋次長</p>	<p>援助に係る支給時期について、支給させていただく中に、入学準備金を</p>

	<p>援助できるようになっています。日野町は今まで準備金を、実際に支給させてもらっているのは前年度の所得が確定する、6月に支給決定して、その後準備金もお渡しするというのが実情です。</p> <p>ですが、先ほど委員さんがおっしゃったように、国からも事前に支給することは差し支えないという通知が29年4月に来ておりますし、日野町も、30年度はそうのようにやっていきたいということで予算要求をしているところでして、現実には31年4月の入学前の時に支給ができるようにしたいと思っています。</p> <p>ただ、要保護・準要保護は前年度の所得基準で決めますので、前年の所得が決まるのが6月です。その時になって初めて基準に該当するか、しないかという対象が正確に決まるということになりますので、準備金を先にお渡しして援助をさせていただきますけれども、それは前年度の所得を見てさせていただきますので、実際に6月に前年度の所得によって、もし対象にならなかつたら、それは返してくださいという条件付きで事前に支給をするという方法で、31年度の入学生から小学校も中学校もしたいと思っております。30年度入学の方については今のところ措置ができていませんので、日野町はできないということになっています。</p>
西村委員	<p>この事業に関する予算というのは、小学校・中学校とも各々700万円くらいを予算として計上していただいているわけですが、本年度からの事前支給は出来ない、規則的には、30年度からしかできないということですね。</p>
高橋次長	<p>31年度新入学の方に対して、事前に支援をしようということで今予算要求をしているところです。</p>
西村委員	<p>わかりました。この件につきましては、31年度に入学する方から実施するというので、了解しました。</p> <p>もう1つ報告ですけれども、ついこの間の20日の土曜日ですが、県教育委員会の生涯学習課が「平成29年度生涯学習・地域づくり実践フォーラム」を「G-NETしが」で開催されました。案内チラシを見て申し込んで参加してきましたので、少しだけ時間をいただいて報告させていただきます。</p> <p>このフォーラムの前半では、平成29年度に取り組まれた「生涯カレッジ事業」についての事例発表が行われました。「地域づくり型生涯カレッジ、推進事業」は、県が平成9年度から実施してきた「淡海生涯カレッジ事業」をリニューアルして28年度・29年度と推進してきた事業です。29年度に、県の呼びかけに対して応えられて実践されているのは、大津・彦根・長浜・甲賀の4市です。最初は草津も入っておられたのですが、今はその4つの市が補助を受けて事業をなさっているということでした。</p> <p>最初に生涯学習課長が「生涯学習・地域づくりと結びつく学習機会」の提供ということで、あいさつを兼ねたお話がありまして、そのあと事例発表ということで、事業に取り組まれた甲賀市と長浜市がそれぞれ実績報告をされました。</p> <p>30人くらいの定員で募集して受講してもらおうような「勉強会」ということで、年間15回くらいのプログラムがございまして、そこに参加されて学ばれる、それを地域づくりに活かすというのがその狙いだと思います。</p>

だいたいその15回のうち3分の1が地域で色々な問題点を発見するというような講座、それから3分の1が体験的な学習、あとの3分の1が理論学習ということで、ここへ大学が絡んでくるのです。甲賀市は立命館大学、長浜市は長浜バイオ大学がそれぞれ講師等を派遣されて運営をなさっているわけです。

そのお話を聞いていまして、日野でやっている町民大学講座の方が広がりもあり、いろいろな話題性もあるテーマでやっていただいていますし、さらに各公民館でいろいろな実践的な勉強会をやっておられますので、トータルすれば長浜や甲賀でやっておられることと、日野でやっていることは変わらないなという私の感想を持ちました。

この中身については、報告するのは時間がかかりますのでいたしませんけれども、長浜市について少しアツと思いましたのは、生涯学習の所管は教育委員会ではないのですね。市民協働部という市長部局が生涯学習、それから図書館、文化財関係、そして人権関係、私どもの町で言えば教育委員会です。長浜市の場合は市長部局でやっておられると。それにスポーツとかコミセンとか総合センターなども含めて市民協働部ということで活動なさっているという組織で、これはまた行政というのはいろいろあるんだなと私は思いまして、びっくりいたしました。

以上が事例発表ですが、私が聞いたかったのはそのあとにございました金沢大学地域連携推進センターの浅野秀重先生の公民館に関するお話です。「学びの成果を生かした地域づくり」というテーマで、地域づくりのための生涯学習のあり方ということをお話しなさるので、それが聞いたかったので寄せてもらったのです。

講演では、先ず旧の教育基本法、それから新の教育基本法、それぞれ第1条には「教育の目的」がどういうふうにならわっているかということから始まりまして、新旧の教育基本法の中で社会教育の位置づけがどのようにされているか、どのような違いがあるか、憲法23条との関わりではどうなのか、そういう原則的なお話をされました。それに続いてユネスコ国際成人教育会議というのがあるのですか、そこで回を重ねてやってこられたいろいろな成人教育に関する宣言、我が国における中央教育審議会の「新しい時代における教養教育の在り方について」の答申等々について詳しい解説がございまして、そのあとはいよいよ地域づくりと生涯学習との関わりというお話をなされました。

熱のこもったお話でございまして結びは、社会における学びというのは、社会を創る学びにしていけないといけない、地域づくりの担い手を育てる攻めの社会教育事業を推進していかないといけないと、強く訴えられました。学び重視による地域コミュニティの創造的再生と、言葉で言えば難しいのですが、「学びは、昨日と違った今日の自分、今日と違った明日の自分づくりのための営み」と心に刻んで、みんなが力を合わせて頑張っていくという、非常に熱のこもった講演でした。

1つだけ、会場から質問が出まして、公民館とコミセンとの関係です。公民館ではいろいろときちんとしたルールが決められているので、窮屈だ、今の地域の要請から言えば、もっと地域が潤うようないろいろな施策を公民館としてやっていきたいという場合に、「コミセン」に脱皮していかないといけないのではないかと意見に関してどうですかという質問がありました。これについて先生は、縛りを外しても、公民館としてみなすという方法もあるので、公民館という学習、社会教育の根幹的な部分はきちんとやっていく、そういうことならコミュニティセンターに進んでいくのも、

<p>今宿教育長</p>	<p>まあ、そういう方向もあるかなということをおっしゃいました。いろいろそれぞれのところで検討が進められているとは思いますが、ただ先生ご自身は、その意見は少数派ですとおっしゃっていました。だからやはり、公民館活動といったときには伝統的な社会教育というものを大きな1つの柱にした中で進めていくという、一般的にはそのご意見の方が多いのだなど、私はその講演を聞いて受け取りました。</p> <p>ここにまた資料が1セットございますので、どうぞご利用ください。簡単ですけど、報告しておきます。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>ありがとうございました。貴重な資料をいただきましたので、見させていただきたいと思います。様々な地域づくりに活かす講座や、機会も持っているわけでございますけれども、うまく情報等を集めながら、自分たちのしていることの値打ちを意識し、また今後の方向性を考えていく必要があると思います。先ほどの長浜市の、人権とか図書館などを市民協働部が担っているということからも、生涯学習課や教育委員会がしていることというのは、まさにまちづくりに直結しているのだという認識を持っていかないといけないと感じました。</p> <p>そして公民館活動とコミュニティセンターについては、議会でも質問がありましたし、今後その考え方等、あり方等もしっかり協議していく必要があると思いました。ありがとうございます。</p> <p>今、学校教育に関することで思っていることを簡単に述べさせていただきます。</p> <p>皆さま方ご承知のように、一昨年12月20日くらいに中教審の答申が出ました。それはこれまでの枠組みとは大きく考え方が違うものが出まして、そして去年の3月31日に小・中の学習指導要領が出ました。当然のことながら、そのバックの考え方は中教審答申でございまして、それをぶつ切りにして、大きなところだけ出しますと「開かれた教育過程」ということでございます。</p> <p>そのことと、この間の原先生のお話等々とかくっつけてみますと、原先生の専門は教育社会学ということで、いろいろな京都・滋賀の学校に入り込んで様々なデータを集めて、そこからいろいろな提言などをされているわけですが、中教審答申の中でいうと、開かれた教育課程という部分は、新しいものをどんどん入れていくのだけれど、地域、市町といってもいいのでしょうか、地域の中で学校が独自にそれぞれの方向を決めてしていくだけではなくて、市町の全体の教育をどちらの方向に向けていくかということによって足並みを揃えて、小・中がそういう方向に行くというようなことだと思います。</p> <p>日野町では、例えば一番大きなところでいうと「きずな事業」というのがあろうかと思いますが、私の印象では、どちらかというところそれぞれの小・中の考えとか、そういうものが中心になっていて、教育委員会そのものはどちら向きにそれを向けているのかなというようなことを時々思うことがありまして、何も中教審答申が完璧なものだなんて思っておりませんが、開かれた教育過程と言いますと、やはり出てくるのが従来からあるようなコミュニティスクールとか、そういう一定の縛りのある、そしてより活性化された学校経営、そういうものにつないでいきたいと思います。提言されていると思うのですが、あまりにも大きく学校教育の概念が変わってきています。コミュニティスクールは、条例などで縛らなければ</p>

今宿教育長

ばなりませんから、特段それは要らないという判断だったと思いますけれど、原点に戻りますけれど、ややこしいという表現をしたらいけませんけれど、一昨年の12月に出た中教審の答申が、これからの学校教育の一番中心の考え方になることはもうわかりきっています。それに基づいてこれから学校の先生がいろいろ研修などもしてもらわなければならないわけですが、そういう部分と、今それぞれ活発に「きずな事業」という名称のもとで行われているものとの整合性のような、根本的なところについてどういうふうにしていこうとされているのかなということ、日頃から関心を持っているわけです。

お考えがありましたら、簡単に結構ですので、述べていただければありがたいと思います。

ありがとうございます。なかなか大きなお話ですので、簡単に答えることはできないのですが、思っておりますのは、まず指導要領が小学校では、2020年から実施されるということです。幼稚園は今年から、中学校と高校と1年ずらして続くのですが、その指導要領は、だいたい10年間を見据えたものでありますので、それで考えますと2030年という社会を見据えたものが今出されているのだと受け止めています。

ですから、その内容に意識がついていかないことも実際にはあるかと思えますし、これからの2020年～2030年という社会はどんな社会になっているかと想像しても、想定しなかった時代がやってくるかとも思えます。今、第4次産業革命といわれるようなAIをはじめどんなことができるような社会になっているのかということにも、もっともっと関心を持つ必要があると思えます。

中国でクローンのサルが2匹誕生したという記事を読みました。霊長類のクローンというのは全く初めてのことで、人間もそこに近づくわけですから、SFの世界というものが現実になるというような、どんな時代が来るかわからないというところに、これからの子どもたちは生きていかなければならないということがまず大前提にあるかなと思います。

その一方で、現実の現在社会というのは、今まで当たり前にしてきたコミュニティとか価値観などが崩れてきて、家庭の教育力も低下している。「1億総活躍」という姿、少子高齢化の中で女性や高齢者が経済活動をするということが推奨されて、待機児童とか、いろいろな問題が今起こっているわけです。いろいろなものがまだきちんと整理されてない中で新しいものを考えなければならない、混沌としている時代でもあるかなと。

そのような中で「地域社会」というものをどういうふうにつくっていかなければならないかということが「学校を核とした地域づくり」「社会に開かれた教育過程」というキーワードのもと求められているのではないかと思います。

子どもたちが地域社会でしっかりと生活し、アイデンティティを育むことが大事であります。そしてその地域学習をするのに地域の方たちとの「地域きずな事業」をしっかりと進める。目の前に見える、わかりやすい、やりやすいことをきちんとやっていくということを先生方に示すのが、まず一歩かなと思っています。

高橋委員

ありがとうございました。これから年度末を迎えまして、新しい日野町の教育方針を策定されるだろうと思いますので、その根本には、好き嫌いとは別に、その根本は中教審答申であると思えます。ぜひそういうこと

今宿教育長

西村委員

もにらみながら、例えばA I 教育をどうしようとか、そういうことを新年度の日野町教育方針にぜひ、無理なく、入るところはぜひ入れていただきたいなと思っております。

私は教育委員の立場を離れて、N P O 法人経営ですけれども、企業と教育を結んで、A I 教育、そういうものを私の所属している団体で立ち上げていこうと、そんな話になっておりますので、ぜひとも可能な範囲内で、日野町の教育にプラスになる方針も出していただけると、これまでの成果をさらにまたプラスにさせることができると思いますので、よろしく願いしたいと思っております。以上でございます。

ありがとうございました。

高橋委員さんがお述べになられたので、私も一言述べさせていただきたいと思います。5日に開催されました日野町教育フォーラム、実践報告と原先生のお話、私も大変感激をいたしました。

原先生のご講演の中で秋田・福井、それぞれの学習環境というか、学校の取り組み、わかりやすくおっしゃっていただいたし、集団に入れない子どもの存在に気を配るなど、人と人との「つながり方」を教えることの大切さもお話いただきました。また家庭において何が重要かということについても、経済資本、社会関係資本、文化資本といったところを示しながら、どういうふうに影響が出るか、非常にわかりやすくおっしゃっていただきました。

私も、それとあわせてというよりも、日野で取り組んでいただいている「ひのっ子育て」ということで、この事業についてのレポートを拝見しまして、福井の方へ行かれて小学校・中学校それぞれ現場をつぶさに見てこられて、その中で日野としてどうして取り組んでいくところがあるのかという詳しいレポートを見せていただきまして、読んでいて「なるほどな」と思いながら読ませていただきました。

福井は福井としての基盤となる社会なり家庭というものがあって、それと日野は滋賀県に所在する、どちらかといえば田舎のまち、福井と共通するところもあるけれども、かなり違うところもあるのではないかなと思いつつながらこれを読ませていただきました。

ここで1つ私が思いましたのは、学校がどういうふうにも動的にその子どもたちに対して取り組んでいくかということでは、非常に鮮明な部分がありますね、はっきり福井としてやっておられることは。どの先生も同じパターンで授業の流れをきちんとやっておられる。だから、子どもたちは安心して話が聞けるということを読ませていただくと、なるほどなと、長年培ってこられた1つの仕上がった姿としてそういうものがあるのだなと思えました。

どちらかといえば、学校でビシッと、締めつけると言うとおかしいですけども、きちんとやる。それに対して家庭は少し距離を置いてうまく指導しておられるという、これは図書館で借りてきた志水先生と、前馬優策さんの共著、これは参考書籍の中にありますね。「福井県の学力・体力がトップクラスの秘密」、これを読ませていただくと、非常にその辺がつぶさに出てきて、わかります。

ただ、日野の子が置かれている状況の中で、機械的にあてはめると、これまたいろいろな問題も起こってまいりますので、日野の実情にあった十分な検討が必要かと思っておりますけれども、ただ、日野でも取り組めないか

	<p>なあとすることがあります。例えば中学校の ALL OFF 週間というのがありますね。試験の前1週間はスマホも触らない、テレビもつけないという、一定の期間だと思いますけれども、そういうことを子どもたち自らがそうして取り組もうよというところで取り組んでいるというところが、本当に偉いなと思いました。上から一方的に押しつけるのではなくて、生徒さん・生徒会がリーダーシップをとって「こうやろうよ」ということでやって、それが定着しているというのが素晴らしいなと思いました。</p> <p>先ほど来から、高橋先生がおっしゃっている、大きなところでの1つの目標なり進め方というものと、具体的に現場でこうしたものをどう噛み合わせてやっていただけるかな、日野の実情に合わせてやっていただけるか、県外で研修していただいた成果、あるいは原先生のご講演の成果がうまく授業を進めていただくうえで結びつけていただいて、取り組んでいただければいいなと思いました。</p>
<p>今宿教育長</p>	<p>先生方も先進の地に学んで、意識をしっかりとって、元気に教育に当たってほしいと思っています。</p> <p>また、原先生につきましては、好評でした。アンケートの中で「またご指導いただきたい」という意見も多く、できたらもう一度、日野町に来ていただけたらいいなと思っています。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>原先生に来ていただいて、すごく勉強になったわけですが、原先生も実は滋賀県の中でもいくつかのところへ入り込んで、定期的に全員研修会という名前であるかどうかわかりませんが、やっておられますね。</p> <p>私も思い返しますと、新採の頃には日野町の教育の一番の課題は同和教育であるということで、同和教育研究会を立ち上げる時に、滋賀大の加藤直樹先生に学期に1回来ていただいて、そういった分野の基本について学んだということがございます。</p> <p>今はもうそんな話ではなくて、例えば今、原先生のおっしゃっている現状、学生が孤立化している、私の職場も一時そういう傾向があります。日野町の教育をこういうふうにしていきたいという教育長の願いなり、そういう強いものと、原先生の主張されているところが合致したとしたら、それはある意味で日野町が今立ち上げて進めている「きずな事業」ともオーバーラップするところがあるかと思えますし、学識経験者、社会教育学の専門家でもありますし、来ていただいて、お話を聞いて深めていく。</p> <p>スマホも日野でもかなりの割合で持っていると思うのです。テレビの時間も長い。甲賀市と情報交換していますけれども、日野と同じで長いと思うのです。そういうところで課題を解決していく一助にはなるだろうと思えますし、くどいようですけれども、そういったこともまた教育方針の中に挟み込んでいただけるとありがたいなと思っています。よろしく願いいたします。</p>
<p>今宿教育長</p>	<p>よろしいでしょうか。それでは、進めさせていただきたいと思います。</p>
<p>今宿教育長</p>	<p>次に、日程5の協議事項に入ります。</p> <p>「小中学校の児童生徒数の推移と今後の見込について」事務局から資料の説明をさせていただきます。</p>
<p>正木参事</p>	<p>(資料の説明)</p>

<p>今宿教育長</p> <p>高橋委員</p>	<p>ご質問やご意見をなどございませんか。</p> <p>今、数値データを出していただきまして、ありがとうございます。先ほど会が始まるまでに、平成35年の予想、小学校全体で1,000人は切らないのだと、ちょっとホッとした感じもあるわけですが、逆にまた、桜谷小学校について、私の字ではもう小学生がいなくなります。</p> <p>これから10年先、どういう社会になるのかはなかなかわかりづらい面もあるわけですが、2030年あたりを見据えて、小学校の統廃合とかいうことを視野に置くのではなくて、この日野町の中にある小学校でいうと、いち早く鎌掛小学校は最終的に議論の末、保護者の判断で日野小学校へ来るということを決められました。どういう形がよいのかはわかりませんが、例えば桜谷小学校でいくと、このままの数字で平成35年にいくのかどうかですけれども、これでいくと小学校6年生までで72人ということ、単純にいうと1学年が12人くらい、そういう数字ですよ。</p> <p>こういう数字がここにこういうふうにつながる数字が表れているということは、大きな教育的な、これから考えていかなければいけない課題ではないかなと思うのです。そういうことと一方では、話がずれたように思われるかも知れませんが、国の方でも本格的に義務教育学校を法的にも立ち上げます。つまり、小学校の免許と中学校の免許を持った先生を入れるわけですね。それは、例えば日野小と日野中がそうなるのかどうかは、わかりづらいことでもありますけれども、そういうようなことを含めて、全体的に減っていかざるを得ない社会情勢がある中で、いきなり学校統廃合とかいうことではなくて、どういう姿が一番この日野町の中の教育力をより高めていけるのかを考えることが大切だと思います。</p> <p>私が思っている一般論ですけれども、町が勢いよくあるのには、やはり産業面、道路面とか、直接教育とはつながらないと思われるようなところが大きく就労のところでもあがってくるかと思えますし、それが教育にも大きな関連性がありますので、そういうこととあわせて子どもさんの人数がこういうふう減っていくということがはっきり見えていますので、話し合う場がこれからは必要かなと思っています。</p>
<p>今宿教育長</p> <p>野瀬参事 日永課長 高浪館長</p>	<p>ありがとうございます。少子高齢化とか人口減少というのは、町はもちろん、国の大きな課題であり、町が元気で勢いがある、また住み続けたいまちのためにどうしたらいいかということについては、議会も「人口減少対策特別委員会」を持っておられますし、町の中でも課をまたがって、いろいろな事業をしたり、協議をしたりしているわけでもありますので、その観点をしっかりと持ちながら進めていきたいと思っています。ありがとうございます。</p> <p>他にご質問やご意見はございませんでしょうか。</p> <p>無いようですので、次に日程6の今後の予定等について、学校教育課から順次説明をさせていただきます。</p> <p>各課から説明</p>
<p>今宿教育長</p>	<p>今後の予定の説明が終わりましたが、ご質問などございませんか。</p>

今宿教育長	<p>無いようですので、次に、次回の委員会日程について、事務局から調整をさせていただきます。</p>
今宿教育長	<p>2月定例会について日程調整</p> <p>次に、日程7のその他に移ります。該当あれば、担当から順次説明させていただきます。</p>
野瀬参事	<p>説明についてご質問などございませんか。</p>
今宿教育長	<p>平成30年度の教育委員関係関連行事について</p> <p>ほかにごございませんでしょうか。</p> <p>以上を持ちまして、定例会を終了します。</p>

